

京都市生涯学習新世紀プラン（概要）

はじめに 京都市生涯学習新世紀プラン策定の趣旨

もっと知りたい、もっと学びたい、もっと自分を磨きたい…
そんなふう感じたことって、誰にでもあるのではないのでしょうか。
京都市では、「誰もが、どこかで、自由に、何かを」学べる支援体系を創り出そうと考えています。
市民の皆さんが進んで学習に取り組み、それを深め、その成果が評価され、そして存分に活用していくことができるまち。
学習が、より身近にあり、出会いと生きがいに満ち満ちたまち。
この計画は、そんな生涯学習のまちづくりを市民の皆さんとともに進めるために必要な京都市の取組をまとめています。

1 策定のねらい	学びが市民のくらしやまちに溶け込むよう、様々な生涯学習関連機関や企業・団体等とのネットワークを核とした学習支援の新たな仕組みを提案・構築し、生涯学習を飛躍的に発展させる。
2 策定の経緯	▷平成11(1999)年6月の京都市社会教育委員会議答申が提起した理念を踏襲。 ▷同年10月に「京都市生涯学習推進計画起草委員会」を設置し、市民参加のシンポジウムやアンケートなど、様々な市民の声を生かしてまとめた。
3 対象期間	▷平成13(2001)年度から22(2010)年度まで。
4 構成	第1部……21世紀の潮流と生涯学習推進の新たな視点 第2部……行政の取組を市民の自律的・創造的な生涯学習支援策として体系的に再構築 第3部……市民との協働による総合的なネットワークの形成と推進体制

第1部 21世紀の生涯学習

広い意味で教育は、社会全体が主体となり、社会の全体を対象として行う終わりのない取組です。
また、学習は、すべての人の生涯にわたる営みであり、その機会は社会のあらゆる場所や機関に用意されているのがあるべき姿と言えるでしょう。
21世紀の生涯学習は、成熟した市民の学習意欲と活動を基盤として、知識の習得にとどまらず、人生や地域のコミュニティづくりを視野に入れた創造性あふれる営みへと発展する新たな段階を迎えています。
豊富な学習資源を生かしながら、一人一人の市民の「気づき」「学び」「分かちあい」を積極的にサポートする…京都市では、そんな生涯学習施策を重点的に進めます。

第1章 21世紀の潮流

大量生産・大量消費・大量廃棄の社会システムや戦後の経済成長で失った家庭教育、地域コミュニティ、モラルや生命観。21世紀を、ともに生きるという人間性回復の時代と想定して社会像を予測。

自由時間の増大	学習や趣味の縁で結ばれた複数の帰属先を持ち、ライフスタイルが単線型から複線型へと変容
高度情報化の進展	インターネットを通じ、誰もが情報の発信者に。また在宅型学習システムとして機能
少子・高齢化の進展	生涯学習が、世代を超えて、ともにふれあい、伝えあい、支えあう活動を促進する有効な手段として認知
産業・就業構造の変化	就労、キャリアアップ、起業などを求めて学び続ける人の増加、リカレント教育の一層の進展
国際化・異文化交流の進展	諸外国の人々との交流機会が増加し、異文化を理解・尊重する態度、もてなしの心、自国の歴史や文化への関心が高揚
価値観・社会観の変化	自由を基盤とした「個」の確立と、「個」を超えたつながりによる新しい「公」の創出

第2章 市民が主役の生涯学習

1 生涯学習とは

- ▷ 主役は一人一人の市民
- ▷ 公的な生涯学習施策には、学習者の何をどのように支援するかというしっかりとした意図と道筋が必要
- ▷ 知識や職業技能を身に付けるためだけでなく、他の人とともに生きるために学ぶ、責任を備えた自律的な活動ができるようになるために学ぶという広がりを持った新しい生涯学習観が市民社会の中で醸成されていくことが必要

2 広がりと深まりを見せる市民の学習活動

- ▷ 市民の学習活動に広がりや深まりがあることを「市民の余暇と学習に関するアンケート」結果から提起

3 生涯学習を支える京都の都市特性

- ▷ 学びと出会う機会の多さ、多様さ
- ▷ 文化の豊かさ、歴史の深さ
- ▷ 自然との共生
- ▷ 自治の伝統

第3章 生涯学習の新しい段階

1 京都の生涯学習推進ビジョン

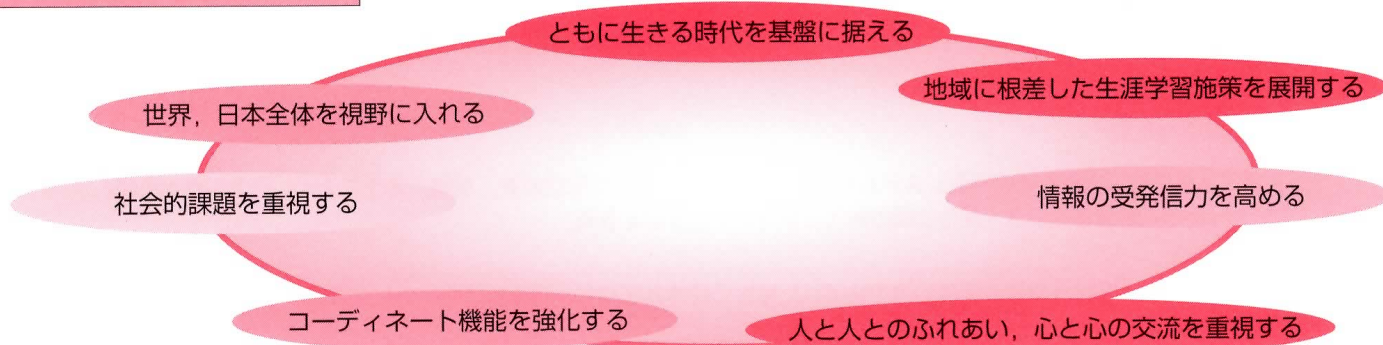
- ▷ 生涯学習を通じて、他の人や自然とかかわり、その中で自らの課題に気づき、その課題を自らが解決する力（エンパワメント）を育み、人生や社会全体の創造へと発展しうよう支援

2 生涯学習推進の目標 人を育てる、文化を創る、時代を拓く

- ▷ 自らを磨き高める機会が豊富にある学習環境づくりと世代を超えてともに学び、一人一人がいきいきと輝く地域社会の実現に向けた取組を推進

人を育てる	人のつながりが薄れ行く中で、人と人を結び付け、困難にもしっかりと立ち向かい、新たな発展を模索し、創造する、新しい時代の新しい京町衆の育成を支援
文化を創る	生活文化、芸術文化、人権文化、スポーツ文化等、今日のありとあらゆる文化を複合的、重層的に結び付け、そこから新しい市民文化の創造を促し、世界文化自由都市・京都の実現をめざす
時代を拓く	過去と現在、伝統と先端を結び付け、幾多の衰亡の危機から京都をよみがえらせてきた先人たちの進取の精神と情熱に学び、豊かな未来の形成に寄与

3 生涯学習推進の方向性と課題



第2部 自律的・創造的な学びの体系的支援

人生を旅にたとえたとしたなら、生涯学習政策は、いわば駅のような役割を果たすものと言えるのではないのでしょうか。人々は、それぞれの目的地へ行こうとここに集まります。公営の電車や民間の様々な電車（学習機会）が相互乗り入れしており、ホームにはその発着時間を示す時刻表（学習情報）が備えられています。

特急もあれば、各駅停車もあり（学習の手段・方法）、乗換えも自由です。選択は個人の意思にゆだねられています（自己決定、自己責任）。もし、希望する電車が分からなければ、駅員に尋ねれば良いでしょう（学習相談）。

目的地にたどり着き、目的をかなえるのはあなた自身です。それまでの間、車窓の風景を楽しんだり（偶発的学習）、乗り合わせた人と歓談（交流）しながら素敵な旅を楽しみたいものです。

あなたの思い出ばなし（学習成果の発表・還元）に触発された人たちの、駅へと向かう姿が目に見えます。

第1章 施策別の体系－自分さがしの旅を手助けするために

1 学びを支える人づくり

生涯学習を支える指導者の発掘と活動支援
地域に生涯学習の場を生み出すコーディネーター等の養成
ボランティアの育成と活動支援
社会教育関係団体等への支援
多彩で創造的な人材の育成
地域人材情報の整備と発信

2 創造的な学びの機会づくり

体験型・参加型生涯学習の推進
宿泊型・滞在型生涯学習の創設
情報通信技術（IT）学習の推進
学社連携・学社融合による学習機会の充実
リカレント教育・勤労者教育の充実
社会的課題に焦点を当てた学習機会の充実
創造的・先駆的な学習機会の提供
生涯学習関連機関の市民参加講座の推奨

3 身近な学びの拠点づくり

新中央図書館の建設など市民の本棚としての図書館の充実
学習支援機能を持つ新たな施設の整備
既存施設の機能の充実とバリアフリーの推進
学校施設の高度活用の推進
地域での学びと交流の拠点整備

4 学びと出会う仕組みづくり

学習拠点施設の情報連携
新たな情報通信技術を取り入れた各種情報提供システムの整備・充実
自主的な学習活動を促す情報提供の充実
様々な広報媒体を活用した情報提供
学習相談の機能強化
情報の受発信機能の広域的な整備

5 学びを通してふれあう地域づくり

学習を基盤とした交流機会の創設・拡充
「生涯学習推進月間」の制定
地域の特性を生かした交流の推進
地域における多彩な交流の拠点づくり
スポーツ・レクリエーション活動での交流振興

6 学んだ成果が生きる環境づくり

学習成果を社会参加につなげる仕組みづくり
学習成果の顕彰・表彰制度の創設
学習成果の発表の場の確保・創設
ボランティアバンクの構築

7 学びにあふれたまちづくり

新たな学習プログラムの研究・開発
学びの成果を認めあうシステムの開発
社会的課題の研究と成果の活用
生涯学習施策の総合的な研究の推進
京都が育んできた多様な学習資源の活用
次世代型ネットワークシステムの開発

第2章 課題別の体系－自らの力を磨き高めるために

1 生涯学習の基盤を培うために

家庭教育の支援
子育て支援
学校教育の充実
学社連携・学社融合の推進
青少年の健全育成
心が通う地域づくり

2 人、自然、地域社会との かかわりを見つめ直す

人権文化の構築
男女共同参画社会の実現
豊かな長寿社会の実現
障害のある市民の社会参加と自立の支援
国際化の進展への対応
情報化の進展への対応
環境の保全とまちづくり
健康・安全な暮らしづくり

3 生活にうるおいをもたらす

文化・芸術活動の振興
スポーツ活動の振興
観光・レクリエーション活動の振興
ボランティア活動の振興

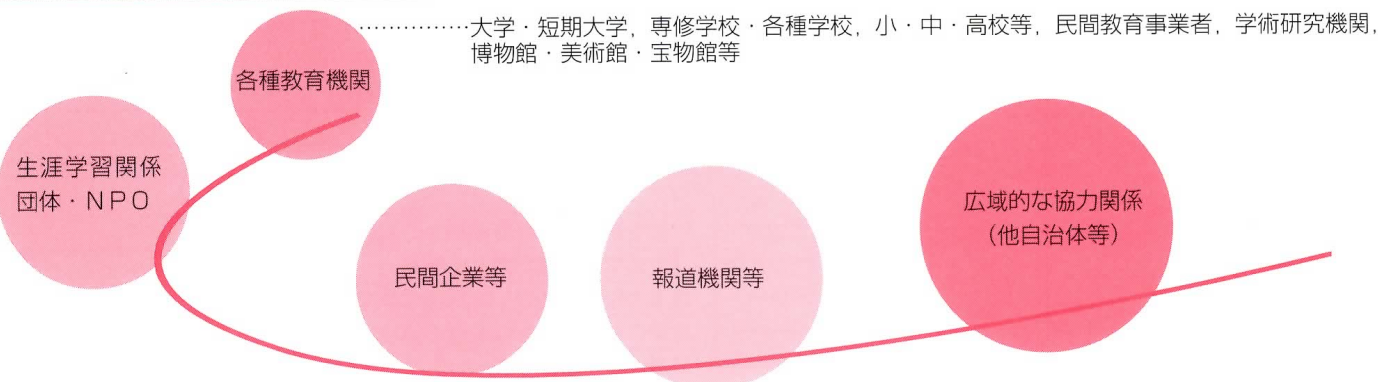
第3部 「まなびやコンビナート・京都」の創出をめざす

京都市内には、幾重にも学術・文化の堆積が見られます。

それは、教育的な機能を持つ様々な行政施設や街角の博物館、神社仏閣、あるいは路傍の史跡や自然の中にさえ息づいています。私たちは、極めて文化の香り高い土壌の上に日々の生活を営んでいます。

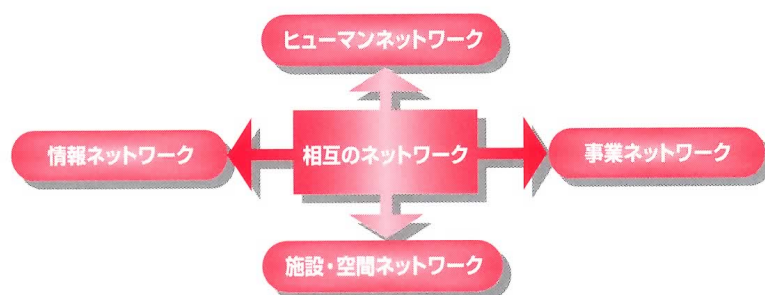
京都市では、こうした独特の都市特性を糧に、新しい生涯学習支援システムの構築をめざします。この新しい生涯学習支援システムとは、接合と複合を中心とした総合的なコンビナートシステム（結合生産方式）です。学習を支援する機能のある「ひと」「もの」「こと」のすべてを結び付け、学びの文化を市民の誰もが手にすることのできるまち「まなびやコンビナート・京都」を創出したいと考えています。

第1章 パートナーシップの確立



第2章 新たなネットワークの形成

広範な学習と実践の環境をコーディネートし、体系化することにより、あらゆる学習資源が縦横無尽に結び付いたまち「まなびやコンビナート・京都」の創出をめざす。



第3章 推進体制

1 総合的推進体制

- ▷ 京都市生涯学習行政推進会議と京都市生涯学習市民フォーラムを両輪と位置付け、広範な学習環境の整備を進める。
- ▷ 生涯学習関連施策の総合的・体系的な推進、横断的な政策立案を図る。
- ▷ 本市職員一人一人が、自らの職務と市民の学習課題とのかかわりの中での確かな助言や指導に当たれるよう職員の自己研鑽を促すとともに、自らの居住する地域において率先してリーダー役を果たし、生涯学習社会づくりの牽引者となるよう意識改革を促進
- ▷ 京都市生涯学習市民フォーラム各加盟団体のさらなる連携を進める情報交流を活性化し、生涯学習施策の審議機能を深める。

2 進行管理

- ▷ 年度ごとに、京都市生涯学習市民フォーラムの評価を受け、京都市生涯学習行政推進会議が計画の進行管理を行う。
- ▷ 京都市生涯学習行政推進会議と京都市生涯学習市民フォーラムとで年度ごとに生涯学習支援の重点目標を定め、相互の連携協力のもとで生涯学習社会の実現に向けた着実な進展に努める。
- ▷ 計画の進行状況、評価結果について公表し、市民の意見を次年度以降の取組に反映させる。